



## 新たな年を迎え 次の目標を見据えて

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、保護者・地域の皆様から温かいご理解とご協力をいただくことで、新型コロナウイルス感染症への対応を講じながら、可能な範囲で教育活動に取り組むことができました。おかげさまで本校の子供たちは、様々な制約の中においても、着実に成長しております。子供たちがより主体的に学び、自らの力を高め、健やかに成長していけるよう教職員一同努めてまいります。本年も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

今日からスタートする年度のまとめとなる3学期は、「1月は行く。2月は逃げる。3月は去る。」と言われるように、あっという間に過ぎてしまいます。そして、新しい節目に向けて準備する期間でもあります。次に備えてしっかり充電できるように、気持ちを新たに組み立ててほしいと願っています。

さて、1年の中では、目標やめあて、願いをもつ機会が何回かあります。まず、4月に「今年度はこうしよう。」と思います。次は10月に「前期を踏まえて、後期はこうしよう。」と思います。そして、年の始まりである1月にも、「今年はどうしよう。」という目標を立てるのではないのでしょうか。



学校でたてる1月の目標には、2つの意味合いがあると思います。一つは、「次の学年に向けて、あと3カ月何を頑張っていこうか。」という、めあてです。もう一つは、新年にあたり、少し遠くの大きな目標に向けて「今年はどうしていこうか。」という、目標です。年の初めに、子供たちが少し先の夢や希望をもつことは、これからの将来を考えると、とても大切なことです。

その夢や希望の実現に向けて、努力を継続していくことができるからです。まだ、少し先の目標が見つけれない子には、この1月を考える機会にしてほしいと思います。

そして、次の年に向けて何を頑張っていこうかというめあてをもつことも、とても大事です。1月から3月までは子供たちが現在の学年で培った力をそれぞれの場で表す時期であると同時に、今年を振り返りながら、身につけてきたことをさらに定着させる期間だからです。一日一日を大事にしながら、子供たちの夢や願いを実現させるための力を付けられるように、令和5年も教職員一同、努力してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、関係者の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## <「成人の日」に思う>

### 成人の日

1月9日(月)は、「成人の日」でした。令和4年4月1日に成人年齢が18歳に引き下げられる改正民法が施行され、今年は、「20歳を祝う集い」「成人を祝う会」などの名称で、御宿町・大多喜町が7日(土)に、いすみ市・勝浦市が8日(日)に行われました。

### 1月 日

成人した当時の自分自身を振り返ると、とても大人とは言えず、未熟なところしかなかったように思えます。そのため、社会に出てから気づいたこと、経験を通して学んだことがたくさんあります。

成長に終わりはなく、人生はいつまでも勉強だということなのですが、それでは社会に出るまでの準備の位置づけとなる学校、とりわけ義務教育では何をすべきなのか、「成人の日」を迎えるといつも考えさせられます。

現在の学校教育では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの要素を一体的に育てることが重要だと言われています。子供たちに、どのような力を付けていくか、学校・家庭(保護者)・地域が思いを一つに取り組んでいければと思っています。



## < 席書大会 & 書初め展 >

本校では、毎年新年初めに席書大会を行い、書写学習の成果を発表しています。



1・2年生は教室で、硬筆作品を書きます。4から6年生は体育館で毛筆作品に取り組みます。12月の練習では静かな空気の中、お手本と自分の作品を見比べ、何度も練習する真剣な姿が見られました。

### 作品展

作品は、1月12日(木)~13日(金)、本校体育館に展示しますので、子供たちの作品をぜひご覧ください。

## < 体調管理について >



本校では、昨年インフルエンザの流行はありませんでした。ところが年末からインフルエンザに罹患したという話を耳にするようになりました。感染症対策(手洗い・うがい、手指消毒など)の基本的な対策に加え、規則正しい生活、適度な運動などで身体を鍛えるなど心がけてほしいと思います。改めてご家庭におきまして、手洗いやうがいの励行、人混みを避けるなどの指導をお願いいたします。



【12月の学校行事から】



お料理教室（6年生）

12月14日(水)に、6年生がJ Aいすみ女性部の方に調理の指導をしていただきました。メニューは、きのこの炊き込みご飯、すりおろしレンコンのスープ、ほめられ酢のポテトサラダ、おさつどら焼きでした。野菜の切り方や皮のむき方のコツを丁寧に教えていただきました。大さじや小さじのすりきりの方法を初めて知り驚いていました。

試食では子供たちはお腹が限界突破するほどおかわりをしてうれしい悲鳴をあげていました。最初はうまくできるか不安な様子でしたが、とてもおいしくでき、笑顔が溢れていました。また、家でも作ってみたいという声があがっていました。



J Aいすみ女性部の皆様、本当にありがとうございました。

正月飾りづくり（5年生）

12月21日(水)に、5年生が布施在住の方を講師を招いて、正月飾りづくりを行いました。講師のご指導の下、日本の伝統的なお飾りを作成しました。



今回お飾りに使用した藁は、5年生が「布施っ子田んぼ」で、5月に田植え、9月に稲刈りをした際の藁を使用しています。今回のお飾りづくりにあたり、地域の多くの方々の皆様にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。



＜家庭教育学級での映像教材について＞

12月6日(火)に実施した、家庭教育学級の講師の市野敬介様から、「ゲームの使い過ぎなどに関する児童向けの講座」で使用した映像について公開の情報提供を頂きましたので、ご活用いただければ幸いです。

<https://ace-npo.org/info/kangaeyou/kyouzai/form.php?oubo=dvd>

＜夷隅民話の会による 語り部「布施の地名」から＞

今から800年前くらい前の寿永3年(1184年)、春のことでした。



鎌倉に住む、後に鎌倉幕府の将軍となる源頼朝のところに上総の国(今の千葉県)から田中兼重という上総一宮にある玉前神社の神官(神社の偉い人)がやってきたのです。

頼朝は「上総」と聞いて顔が一瞬曇りました。上総介広常の顔が浮かんできたのです。

かつて広常は2万人の兵を集めて頼朝に味方し、鎌倉幕府成立に大きな役割をした立派な武将です。

強くてあまりの勢いの良さに嫉妬され、恐れられて、よくない噂をたてられました。噂を信じた頼朝に疑われ広常は梶原景時に命を奪われてしまったのです。



さて、頼朝は動揺を隠し言いました。「遠く上総の国からまいられたそうな。」  
「は、はい。突然の訪問失礼いたします。」  
「ところで用件は、何でござる。」  
「はい。実は上総介広常殿が生前、私どもの神社に美しい鎧を奉納してくださいました。その際に何か願い事を書いた封を結びつけてございました。これがその時の封でござります。」

「どれどれ」

頼朝は封を丁寧に開きました。文書には見慣れた広常の字で次のようなことが書かれていました。



「3年以内にたくさんの田畑とともに神殿を立てて寄付し、儀式として1万回のたくさんの流鏝馬(やぶさめ)をするから頼朝殿の考えていることが実現し、東国が平和になりますように」

と広常が神様にお願いしたものでした。流鏝馬とは馬に乗って走りながら弓矢の的を射る儀式です。

頼朝は文書を読み終わると顔が引きつりました。

涙などみせたことがない頼朝の目から涙が流れ落ちてくるのです。

「許してください。上総介殿。この頼朝にこれほどまでに忠義を尽くしておられたのか・・・」「何ということをしてしまったのだ。梶原景時のいいなりになって。ああ許されよ・・・」

頼朝はいつまでも涙を流しておられました。大変後悔した頼朝は、牢に入れていた広常の血筋をひく、天羽直胤一族をすぐ釈放しました。

また、広常の冥福を祈るために生きている広常の一族に永代布施料(つまり永久的に広常の供養料として)現在の布施の地を与えました。

お布施とは仏様にお祈りし、お金や土地を寄付することです。

このように布施料の代わりとなった土地だから「布施」という地名がつけられたともいい伝えられています。

